

農業次世代人材投資事業及び就職氷河期世代の新規就農促進事業
全国型教育機関としての就農サポート体制

教育機関名：学校法人中野学園 オイスカ開発教育専門学校

(1) 就農に向けた相談体制

1) 相談窓口

学校の通常の教育組織を生かした窓口体制となっている。

①国際協力科 / 就農関係の主たる窓口

国際協力科（農業関係の研修を行っている学科）が主たる窓口として、学科長をはじめとする研修担当者が在学中（研修期間中）及び卒業後（研修終了後）の就農に向けたサポートを行っている。

②教務課：進路指導担当 / 進路全般に関する窓口

進路関係の各種案内、新卒応援ハローワークとの連携、職業適性検査、キャリアプラン等を担当している。

③学年クラス担任 / 補助的な窓口

学年クラスの担任・副担任が補助的な窓口として、上記の各部署と連携している。

2) 相談対応方法等

これも学校の通常の教育組織を生かした相談対応の体制となっている。

①学生（研修生）個々への対応

個々の在校生または卒業生について、本人の状況や希望に応じて、上記の職員が相談に応じる体制となっている。

②定期的対応

年間計画のもと定期的に、在校生には面談（年3～5回）、卒業生には連絡・追跡調査（本事業の卒業生は年3回以上、他の卒業生は年1～3回）を行い、それぞれの対応に漏れが無いようにしている。

③普段の対応

普段の学校教育活動におけるコミュニケーションの中で状況を把握し、定期とは別に、それぞれ本人の希望や必要に応じて面談・相談を行っている。

④外部への相談

本人の状況や目的に応じて、本校への協力者（これまでの就職先、インターンシップ先やアドバイザー等）に専門的な相談やアドバイスをもらえるよう橋渡しを行っている。

(2) 就農・定着に向けたサポート内容等

1) 就農に向けたサポート（就農先の紹介・マッチング等）

① インターンシップとフィードバック

- ・先進的な農家・農業法人へのインターンシップを本人の状況や希望に沿って、複数回（基本的に年2回以上）実施している。
- ・インターンシップ中は本校職員が可能な範囲で視察、調整、指導を行っている。
- ・インターンシップごとに適性或課題を見出し、学校内での研修にフィードバックしている。
- ・そのために、担当教員がインターンシップ先と連絡を取り、評価表やレポートのやり取りなどにより客観的な評価や課題を得られるようにしている。

② 資格取得

- ・必要な資格に関して、資格取得全般を管理・推進する部署及び担当教員が指導・支援をしている。
- ・上記に関する資格講習・検定等は、希望する学生がまとまって受講または受験できるよう便宜を図ると共に、公欠席扱いにするなどの支援をしている。

③ 就職活動とマッチング

- ・ハローワークや地域の農業委員会、農林事務所、農協等と連携をはかり、農地の確保又は就職先（農家・農業法人等）の決定、就農計画作成、就農先開拓のアドバイスなど、希望する地域・ジャンルへの就農を支援している。
- ・研修修了（卒業）後の進路に対するキャリアプラン（就農に向けての目標・課題・取り組み内容・具体的年間計画等）の作成・実施について、指導・支援している。
- ・2年生（最終学年）9月までの進路内定を目標に、進路フェア、インターンシップ、職場見学等によって、就農希望先を絞り込ませている。
- ・「卒業研究」の一環として、将来の営農ビジョン計画と就農に関して研修報告会で発表させ、学生間の情報交換の場としている。
- ・農業関係の進路相談会、インターンシップ等を通して、学生が持つ興味・スキルと農家・農業法人が求める人材について、担当職員を中心に学校としてマッチングしている。

2) 就農後の定着に向けたサポート（地域関係者との連携・フォローアップ）

- ・卒業生への定期連絡や追跡調査（年3回以上）を行い、必要に応じてアドバイスや就職先への連絡・調整、専門アドバイザーの紹介などフォローアップを行っている。
- ・就農先の農家・農業法人等との連絡（年数回）により、本人の状況を確認し、必要に応じてアドバイス等のフォローアップを行っている。

- ・住居その他の生活環境について確認し、必要に応じて相談や自治体等への連絡・調整などのフォローアップを行っている。

3) その他サポート

つぎのような通常の接触で状況を把握し、定期とは別に、必要な対応を行っている。

- ・卒業生の母校訪問を受けての直接的なやり取り。
- ・電話・メールや SNS 等
- ・各種イベント（収穫祭等の農業関係行事、文化祭等の校内行事、環境保全活動、国際交流活動等の地域の行事）